

八戸北高等学校の生徒さんが災害科学国際研究所を訪問されました(2016/8/4)

テーマ：災害医学・災害理学

場所：東北大学災害科学国際研究所棟（宮城県仙台市青葉区）

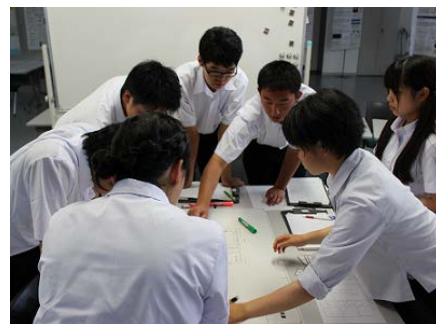
平成28年8月4日、青森県立八戸北高等学校の生徒さんら8名が災害科学国際研究所を訪問され、当研究所 災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野の江川新一教授と災害理学研究部門 国際巨大災害研究分野の丹羽雄一助教が特別授業を担当いたしました。

まず、江川教授より災害医療・防災・リスクとは何かについて、日ごろどのような事を心がけるべきか、また専門分野を越えて意見を出し合うことの大切さ、災害科学におけるシミュレーションの意義などについてお話がありました。続いて生徒さんたちは「避難所運営ゲームHUG®」（静岡県危機管理部作成）を体験し、災害時の避難所に避難する被災者の抱える問題や解決しなければならない情報と課題などに真剣に取り組んでいました。次に、丹羽助教が災害理学とは何を研究しているところなのか、堆積物などからのデータ収集が災害研究にどのように役立てられるのかなどについて、具体的な事例を挙げながら説明しました。また、2階展示コーナーや1階の実験室において、実際の調査に使用する機器や現地の写真、堆積物（ポーリングコア）などを見学し、詳しい説明を受けました。

参加した生徒さんたちからは、「理学の話は少し難しかったが、堆積物などからいろいろな事が読み取れることが分かり勉強になった。」「避難所の運営がとても難しいということが分かって、とても良かった。」などの感想がありました。



江川新一教授



避難所運営ゲームを体験



丹羽雄一助教



堆積物（剥ぎ取り）を見学

文責：江川新一（災害医学研究部門）、丹羽雄一（災害理学研究部門）、鈴木通江（広報室）